

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2013

一人・スポーツ・未来

開催要項

1 開催趣旨

我が国においては、自由時間の増大、体力・健康づくりへの国民の関心の高まりなどを背景にスポーツ需要が増大しており、誰もがいつでもどこでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するための環境の整備が求められています。

また、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進には、国や地方公共団体はもとより、各種スポーツ・レクリエーション団体や、スポーツクラブ、学校関係者、スポーツ関連産業団体等が、相互に連携・協力することにより、トップスポーツと地域スポーツの「好循環」を生み出し、支え合いと活気のある社会をつくるため、自発的に協働するスポーツによる「新しい公共」を形成することが重要です。

このため、関係の各界各層の人々が一堂に会し、地域におけるスポーツ推進の現状及び課題について、研究協議や意見交換を行い、相互理解を深め、関係者間の協調・協力体制の強化と生涯スポーツ社会の実現に向けた機運の醸成を目的とし、本全国会議を開催するものです。

2 主催

文部科学省

生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会

公益財団法人日本体育協会

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益財団法人日本体育施設協会

公益財団法人スポーツ安全協会

公益社団法人全国スポーツ推進委員連合

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会

公益財団法人日本障害者スポーツ協会

公益財団法人健康・体力づくり事業財団

宮崎県教育委員会

3 後援

体力づくり国民会議

4 全体テーマ

「次世代につなぐ新たなスポーツ環境の創出に向けて」
～地域におけるスポーツの推進～

スポーツ基本法の理念を具現化し、今後の我が国のスポーツ政策の方向性を示すものとして、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針である「スポーツ基本計画」が策定され、スポーツの推進に向けた様々な取組が全国で推進される。

これらの多様な取組が、我が国のスポーツを取り巻く社会や価値観の変化、東日本大震災の復興等の新たな課題などを踏まえ、効果的に展開され、年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が生涯を通して、安心して地域におけるスポーツ活動に参画することができる機会の充実が求められている。

そのような中、本会議では、地域スポーツ、学校の体育に関する活動、トップスポーツを一体的に捉え、「誰もがライフステージに応じてスポーツに参画できる環境づくり」、「住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備」、「スポーツ界の好循環の創出」の視点を踏まえ、地域において、より多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち、互いに支え合うことができる新たなスポーツ環境の創出に向けて、推進していくべき具体的な方策について検討を深める。

5 期 日

平成25年1月25日（金）

6 会 場

宮崎観光ホテル

〒880-8512 宮崎県宮崎市松山 1-1-1 TEL0985-27-1212

7 日 程

受付 9:15- 10:00 (45)	オープニング 表彰式 10:00- 10:30 (30)	全体会 (基調講演・ シンポジウム) 10:40-12:30 (110)	昼食休憩 12:30-14:00 (90)	分科会 14:00-17:00 (180)	情報交換会 17:20-19:00 (100)
展示: 9:30-17:20					

8 参加者

地方公共団体関係者

スポーツ・レクリエーション団体関係者

各種産業界関係者

学識経験者

その他関係者 他 (約1,000名)

9 内 容

(1) 全体会

○基調講演

講師：平井伯昌（第30回ロンドンオリンピック競技大会 競泳ヘッドコーチ、東京スイミングセンター指導部長ヘッドコーチ）

演題：「アスリートの育成とスポーツを通じた社会貢献」

○シンポジウム

テーマ：「スポーツ界における好循環の創出」

コーディネーター

内山俊哉（NHKチーフアナウンサー）

パネリスト

菊山直幸（公益財団法人日本中学校体育連盟事務局長）

桑田健秀（NPO法人地域総合スポーツ倶楽部・ピボットフット理事長）

萩原智子（山梨学院カレッジスポーツセンター研究員／第27回シドニーオリンピック競技大会競泳代表）

(2) 分科会

①第1分科会

【求められるスポーツ環境 ～魅力あるスポーツの場とは～】

◆(公財)日本体育協会

②第2分科会

【地域のスポーツ環境の整備に果たすスポーツ推進委員の役割

～年齢、性別、障害等を問わずスポーツを楽しめる社会を目指して～】

◆(公社)全国スポーツ推進委員連合

③第3分科会

【プールを安全に楽しく利用するために

～「遊泳プールの安全・衛生管理と運営・監視法」の在り方～】

◆(公財)日本体育施設協会・(公財)スポーツ安全協会・

(公社)スポーツ健康産業団体連合会

④第4分科会

【ライフステージに応じた体力向上・元気アップ支援の在り方

～運動習慣を身に付けるための取組～】

◆(公財)日本レクリエーション協会

⑤第5分科会

【スポーツと健康づくりを一緒に行うアクションプラン

～スポーツ・運動開始へ誘導する環境づくり～】

◆(公財)健康・体力づくり事業財団・(公財)日本障害者スポーツ協会

(3) 展示

生涯スポーツ・体力づくり関係団体、企業等のスポーツ関連活動を幅広く紹介するため、展示を実施します。

○展示時間 平成25年1月25日（金）9:30～17:20

10 参加申込み (平成24年12月17日 (月) (締切日必着))

本全国会議に参加を希望される方は、別添の「参加申込書」に必要事項を御記入の上、下記宛先まで郵送又はFAXにてお申し込みください。

< 郵送の場合 >

〒141-8691 東京都品川区大崎郵便局 私書箱5号

「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2013」係

< FAXの場合 >

FAX 03-5434-9839

11 参加費等

①参加費 1人2,000円 (資料代込み)

②弁当代 1人1,500円 (希望者のみ)

③情報交換会費 1人5,000円 (希望者のみ)

[納入について]

参加費、弁当代 (希望者のみ)、情報交換会費 (希望者のみ) は、申込受付後に送付する「請求書」に記載されている口座へお振り込みください。

12 留意事項

参加申込みをされた方御本人の理由で参加できなかった場合は、受付時の配布資料を送付いたしますが、参加費等については返金をいたしません。

また、参加申込書に記載される個人情報については、本全国会議開催に係る事務以外の目的には使用いたしません。

13 その他

詳細及びその他不明な点については、下記にお問合せをお願いします。

文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課スポーツ連携室

Tel 03-6734-3485 Fax 03-6734-3792

(公財)日本体育協会スポーツ課 (実行委員会事務局)

Tel 03-3481-2215 Fax 03-3481-2284

なお、本全国会議は、(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者登録規程第4条に定める資格登録更新のための義務研修の一つとなっています。

詳しくは、日本体育協会HP (<http://www.japan-sports.or.jp/coach/get/duty.html>) を御参照ください。

<第1分科会>

1 テーマ

【求められるスポーツ環境 ～魅力あるスポーツの場とは～】

2 趣旨

我が国ではスポーツをする子としない子の二極化が長年にわたり課題となっているが、子供たちはスポーツができる機会の増加を望んでいるとの世論調査が出ている。

子供たちのスポーツ活動は、学校における体育の授業や運動部活動はもとより、地域におけるスポーツの場として、総合型地域スポーツクラブ（総合型クラブ）等での活動が重要であるが、総合型クラブの社会的認知度は高くない状況にある。

スポーツ少年団においては、中学生以上の加入率（特に女子）が低いなど、総合型クラブとの連携・協働が必須であり、将来のアスリートを育成する機会を作る必要がある。

また、東日本大震災の復興に果たす総合型クラブの役割、その後のクラブの復興状況、それらに伴う支援策についても重要な課題となっている。

さらに、地域スポーツクラブや運動部活動での指導者の活用も重要であり、幼児期からの子供の発達段階に応じて多様な指導が行うことができるスポーツ指導者の養成及び資質の向上を図ることも魅力あるスポーツの場に欠かせない課題の一つである。

これらを踏まえ、今後の5年間に向けた基本計画の施策に向けて、総合型クラブ、スポーツ少年団の連携・協働として指導者、内容、情報、スタッフ（人材）、施設の活用の在り方、並びに次世代のトップアスリートの育成についての現状と課題を取り上げ、具体的なビジョンと施策の展開について検討し、浸透させる方策について考える。

3 コーディネーター

勝田 隆（筑波大学スポーツR&Dコア主幹研究員（客員教授）／仙台大学体育学部教授）

4 パネリスト

(1) 「子供のスポーツ環境と体力づくり問題

～スポーツ少年団の取組と課題を踏まえて～

木村 和彦（早稲田大学スポーツ科学部スポーツ科学科教授）

(2) 「トップアスリートの育成～JOCエリートアカデミーの活動を通して～」

平野 一成（公益財団法人日本オリンピック委員会エリートアカデミーディレクター）

(3) 「地域が人を育て、人が地域を変える」

木間奈津子（NPO法人アクアゆめクラブ理事／宮城県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会常任委員）

(4) 「子供たちにスポーツの喜びを～地域との関わりを通して～」

大沼 良介（仙台市立郡山中学校主幹教諭／宮城県スポーツ少年団常任委員長／日本スポーツ少年団活動開発部会員）

<第2分科会>

1 テーマ

【地域のスポーツ環境の整備に果たすスポーツ推進委員の役割
～年齢、性別、障害等を問わずスポーツを楽しめる社会を目指して～】

2 趣旨

スポーツ基本計画では、「住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備」が今後のスポーツ推進の重要な課題として掲げられている。

また、スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を創出するため、年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備することも強く求められている。

このような中、地域スポーツのコーディネーター役としてのスポーツ推進委員には、スポーツ環境の整備に果たす役割に極めて大きな期待が寄せられる。

そこで、地域のスポーツ環境の整備に焦点を当て、非常勤公務員としてのスポーツ推進委員が果たすべき役割について、行政担当者やスポーツ推進委員それぞれの立場から研究協議を行うとともに、参加者との討議を深め、スポーツ推進委員の新たな役割を探る。

3 コーディネーター

赤松 喜久 (大阪教育大学教育学部教授)

4 パネリスト

(1) 「スポーツ推進委員が担うスポーツ・フォア・オール」

阿部 正幸 (全国スポーツ推進委員連合副会長／東京都スポーツ推進委員協議会会長)

(2) 「スポーツ推進委員から見た地域スポーツの環境と改善への取組」

杉元 雅代 (宮崎市スポーツ推進委員協議会副会長)

(3) 「地域スポーツの環境整備とスポーツ推進委員の資質向上に果たす地方行政の役割」

石渡 敏温 (全国都道府県体育・スポーツ・保健・給食主管課長協議会幹事長／千葉県教育庁教育振興部体育課長)

<第3分科会>

◆(公財)日本体育施設協会
(公財)スポーツ安全協会
(公社)スポーツ健康産業団体連合会

1 テーマ

【プールを安全に楽しく利用するために
～遊泳プールの安全・衛生管理と運営・監視法の在り方～】

2 趣旨

今日、遊泳プールは多様な施設が設置され、競技はもとより健康増進の生涯スポーツの場として、乳幼児から高齢者まで広く利用されている。

一方、プールでは、施設や管理運営面の問題から、溺水死事故や傷害事故等が少なからず発生しているのが実状である。

現在、プール監視についての法規制はなく、その安全管理は運営者側の判断により行われている。平成18年のプールの吸い込み事故死は改めてプールの安全性に対する原因の解明と抜本的な対策の必要性を痛感させた。この事故を契機に、国は各施設管理者に対し緊急アピールを発し、直ちにプールの自主点検を求めるとともにプール事故防止のための、施設面、管理・運営面での配慮すべき事項等についてとりまとめ、平成19年3月「プールの安全標準指針」として公表したところである。

また、平成23年に制定された「スポーツ基本法」では、スポーツ施設の整備や施設運用に止まらず、施設の安全の確保や障害者等の利便性の向上を図ることが求められている。

本分科会では、「遊泳プールの安全・衛生管理と運営・監視法の在り方」について協議するとともに、指定管理者制度導入に伴う「プール施設等を委託する立場」からプールの安心安全等の在り方について、改めて理解を深め、実効性を高めるため、併せて研究協議を行う。

3 コーディネーター

白木 俊郎 (シンコースポーツ株式会社/公益財団法人日本体育施設協会専門委員)

4 パネリスト

(1)「安全なプール施設等を委託する立場から」

久木田謙介 (公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団/公益財団法人日本体育施設協会専門委員)

(2)「プール施設のマネジメントと安全面の向上について」

小田川栄喜 (株式会社日本水泳振興会/公益財団法人日本体育施設協会「体育施設運営士・水泳指導管理士」養成講習会講師)

(3)「プールの衛生管理と維持管理コストの削減について」

金子 健 (株式会社協栄/公益財団法人日本体育施設協会「体育施設運営士」養成講習会講師)

(4)「プール施設の顧客満足度向上と監視法のガイドライン」

中村 靖弘 (株式会社フクシ・エンタープライズ/公益財団法人日本体育施設協会水泳プール部会副部長)

<第4分科会>

1 テーマ

【ライフステージに応じた体力向上・元気アップ支援の在り方
～運動習慣を身に付けるための取組～】

2 趣旨

現代の子供は体格が向上している一方、身体能力については、親の世代に比べて依然低く、スポーツをする子としない子の二極化傾向がみられる。

また、20代から30代の女性を中心に、スポーツに疲れを感じる、気軽にスポーツに誘ってくれる仲間がなくスポーツをする機会が持てないなど、安心してスポーツ活動に参画できないと感じている人も少なくない。

こうした現状も踏まえて策定された「スポーツ基本計画」では、誰もがライフステージに応じてスポーツに参画できる環境づくり、遊びやスポーツ機会の充実を目指した取組が重要視されている。

本分科会では、学校や地域をはじめ、多方面で活躍する多くのスポーツ関係者が、特に子供や20代から30代の成人のライフステージに応じた体力向上・元気アップ支援に関わることを目指し、「ライフステージに応じた、誰もが日常的にスポーツ・レクリエーションに親しむことができる環境づくり」について検討する。

3 コーディネーター

谷口 勇一 (大分大学教育福祉学部スポーツ・健康分野准教授)

4 パネリスト

(1) 「成人のライフステージに応じた望ましい運動習慣・スポーツ実践について」

荒井 弘和 (法政大学文学部心理学科専任講師)

(2) 「子供のライフステージに応じた望ましい運動習慣・スポーツ実践について」

佐々木玲子 (慶應義塾大学体育研究所教授)

(3) 「子供の運動能力と取り巻く環境の変化について」

～「できた！」という喜びを！～

水口 高志 (体育の家庭教師「スポーティーンワン」代表取締役)

1 テーマ

【スポーツと健康づくりを一緒に行うアクションプラン
～スポーツ・運動開始へ誘導する環境づくり～】

2 趣旨

スポーツにおいては「スポーツ基本法」が制定され、健康づくりでは健康日本21（第2次）が発表された。

今後地方自治体では、それぞれスポーツ課・健康増進課が計画を立て推進していくこととなる。同じ健康で文化的な生活を目指し、具体的な目標に運動・スポーツ実施人口の増加があるにもかかわらず、連携しあった計画は立てづらい状況にある。

本分科会では、それぞれの立場から目標を達成するための条件を挙げながら、障害者を含む全ての人々が運動やスポーツを開始・継続できる社会環境と、その構築のためにスポーツ行政と健康行政がどのような智恵と資源を出し合う必要があるのかについて討議していく。

3 コーディネーター

下光 輝一（公益財団法人健康・体力づくり事業財団理事長）

4 パネリスト

(1) 「健康日本21（第2次）における運動基準&指針の意味とその実現のための条件」
宮地 元彦（独立行政法人国立健康・栄養研究所健康増進研究部部長）

(2) 「障害のある人が身近な地域においてスポーツ・運動を継続するために
～様々な関係機関・団体の連携・協働による「場づくり」「人づくり」～」
大久保春美（公益財団法人日本障害者スポーツ協会技術委員会委員長）

(3) 「スポーツと健康を融合して誰もがスポーツ・運動に参加できる地域のためのア
クションプランづくり～まず一歩から～」
斎藤 尚美（東京都杉並区教育委員会事務局スポーツ振興課事業係係長（社会教育主事））